



南十字星だより



No.4 2016年 1月 11日

シンガポール日本人学校 加藤幸平

雪の降らないシンガポールでは、今年建国 50 周年を迎えました。年々、日本の食品や商品の人気が高まり、値段は日本の約 2 倍ですが鳥取県でも見かけるお店が増えていて安心感を覚えます。

今年度は 3 年 1 組 (30 名) の担任と 3 年 6 学級の学年主任を務めています。今回は、校外学習で行った印象的な場所と特色ある教育活動を紹介します。 ↓近くで見られる野生動物

1 英語を活かして校外学習へ

(1) シンガポール ZOO

5 年生は、宿泊体験学習に行きました。ここでは、ホワイトタイガーや全長 5m のワニ、バクなど希少な動物を見ることができますが、一番驚いたのは檻や柵がなく、目の前で動物を観察できたことです。これは、水路や植え込みなどのバリアーがあるからです。熱帯雨林の朝、オラウータンと食べる豪華な朝食「ジャングルファースト」は最高の目覚めでした。



(2) セントーサ島

ドリーム学級 (特別支援学級) の生活単元学習では、ケーブルカーに乗り、最南端にあるセントーサ島へ行きました。ここには、世界最大の水族館シークアリウムや高さ 37m のマーライオンタワーなどがあります。海の中を歩くような感覚の水族館は、エイやサメとの神秘的な世界でした。また、シンガポールで一番大きなマーライオンは、エレベーターで口の中 (展望台) や頭の上まで登ることができ、インドネシアまで見渡せました。



↑マーライオンの口から外を見た景色

(3) ラン農園

3 年生は、2 学期に国内外に出荷しているラン農園に行き、その育て方や種類についてインタビューしてきました。グループで質問を決め、働いているスタッフに英語で聞きました。出荷先の一つ「ボタニックガーデン」は、昨年 7 月に世界遺産に登録されました。入場無料で、日本語案内もあり、各国の有名人の名前の付いた色とりどりのランを楽しむことができます。

教室にも、桜のようなかわいらしい蘭を一鉢購入し、みんなで大切に育てています。



2 ICTを活用した思考力の育成

昨年10月に、黒上教授（関西大学）のシンキングツールを活用し、国語「食べ物のひみつデジタルブックをつくろう」という学習に取り組みました。子どもたちは、同心円チャートをもとに説明文を書き、8グループに分かれてiPadでプレゼンテーションを作成していきました。研究協議では、教育アプリ「ロイロノート」の開発者でもある杉山取締役と今後のICT教育について対談を行ったり、



ジャカルタ日本人学校からの視察を受けたりと、ICT機器を活用したアクティブ・ラーニングへの授業改革についての意見交換もでき、実りある2日間となりました。

3 和文化教育の充実

(1) 毛筆

今月は、校内書初め大会がありました。3年生は「美しい心」を書きますが、4月から筆脈と筆圧を意識した指導を行ってきました。時には、9号の大筆で画用紙に好きな漢字を書いたり、小筆で集中して書いたりすることに取り組んできた成果もあって、体育館での本番では、のびやかで美しい字が並びました。

(2) 百人一首

子どもたちは、一学期末から百人一首に取り組んできました。教科書には2首しか掲載されていないのですが、図書的时间や学活的时间にも20首ずつ覚え、11月になると決まり字でどんどん取れる子どもが増え、「競技かるた」そのものになってきました。映画「ちはやふる」の影響もあり、休憩時間でも毎日のように百人一首が教室に広がっています。

4 所感

シンガポールは、国土が狭く経済成長が著しい「強小」国です。観光地やロングステイの国として、日本メディアで取り上げられています。3年間生活してみると、ファイン（罰金や刑罰）を明確に定め、デング熱やテロ対策、緑化などにも「未来への見通し」のもと、素早く国全域で具体化されているのがよく分かります。他国から来ても、安全で快適な暮らしができる現実的な環境整備が素晴らしく、MRT（地下鉄）やバスなど交通機関が安価です。

その中、シンガポール日本人学校（2小1中）は、英語やICT教育、特別支援教育の面で、現地校と切磋琢磨しています。海外での小中一貫教育に従事して学んだことは多く、改めて鳥取県のよさや特徴を理解できたことも成果です。帰国後は、鳥取県の子どもたちの未来に、これらの経験を具体的に還元していきたいです。

